

6 【障害者施策について】

(1) 障害のある人との交流や手助けをした経験の有無

◇「ある」は6割を超える

問30 あなたは、障害のある人に話しかけたり、障害のある人の手助けをしたりしたことがありますか。(○は1つ)

<図表30-1> 障害のある人との交流や手助けをした経験の有無



障害のある人に話しかけたり、障害のある人の手助けをしたりしたことがあるか聞いたところ、「ある」(61.3%)は6割を超えている。「ない」(36.1%)は3割台半ばである。(図表30-1)

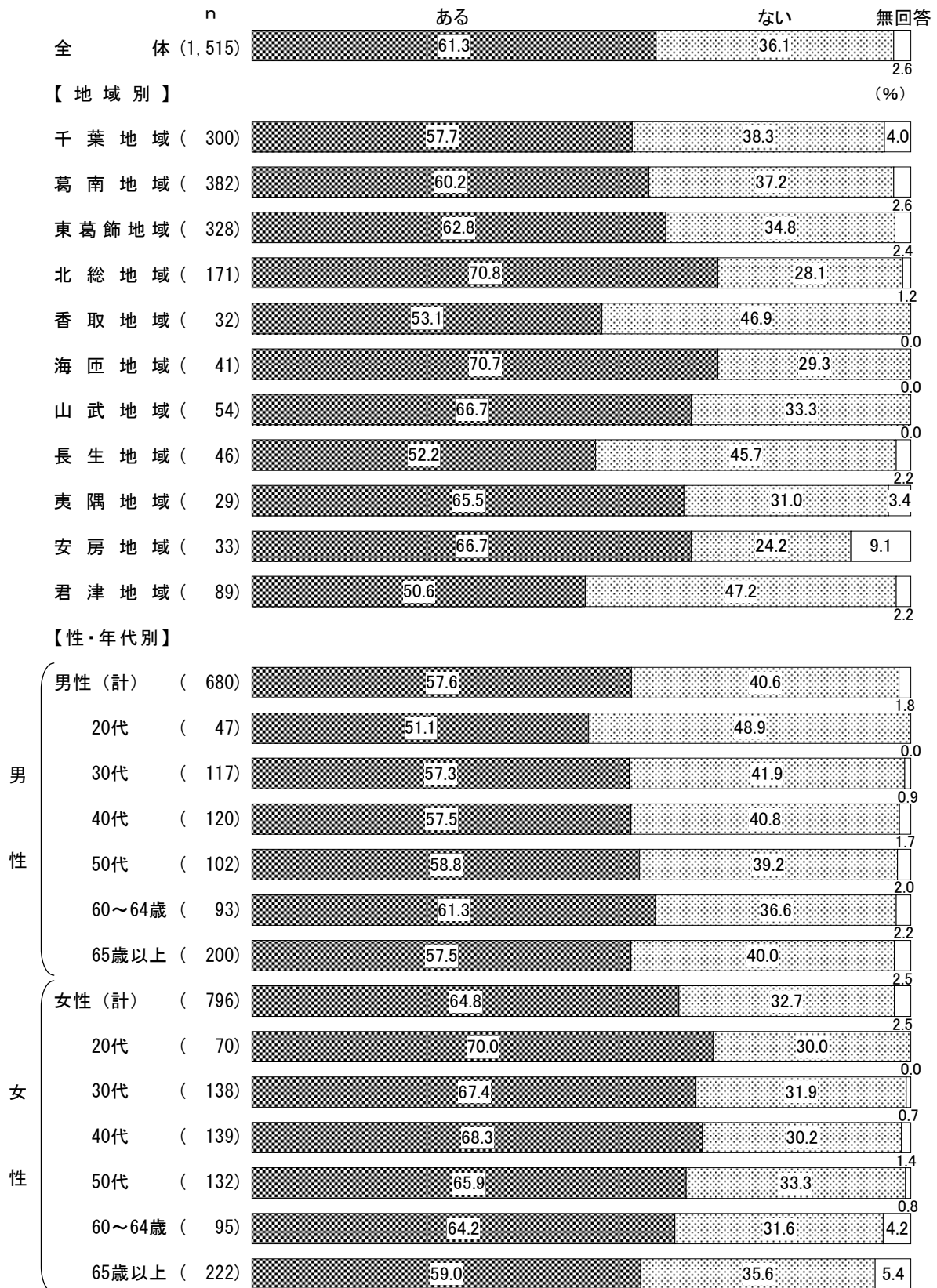
【地域別】

地域別にみると、「ある」は“北総地域”(70.8%)と“海匝地域”(70.7%)がともに7割となっている。「ない」は“君津地域”(47.2%)が約5割となっている。(図表30-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある」は女性(64.8%)の方が男性(57.6%)より7.2ポイント高くなっており、特に女性20代(70.0%)が7割となっている。「ない」は男性20代(48.9%)が約5割となっている。(図表30-2)

<図表30-2>障害のある人との交流や手助けをした経験の有無／地域別、性・年代別



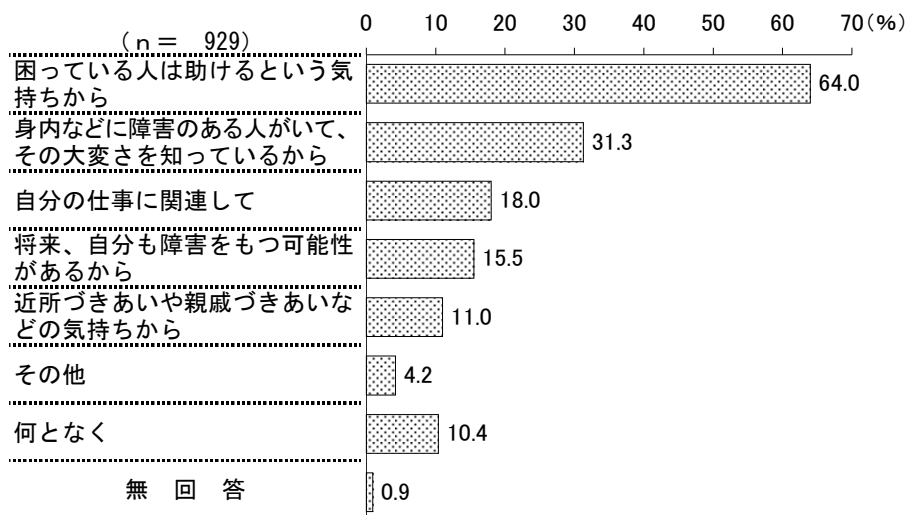
(1-1) 障害のある人との交流や手助けをしたきっかけ

◇「困っている人は助けるという気持ちから」が6割台半ば

(問30で「ある」とお答えの方に)

問30-1 それはどのような気持ちからでしょうか。(〇はいくつでも)

<図表30-1-1>障害のある人との交流や手助けをしたきっかけ



障害のある人に話しかけたり、障害のある人の手助けをしたりしたことが「ある」と答えた人(929人)に、どのような気持ちから交流や手助けをしたのか聞いたところ、「困っている人は助けるという気持ちから」(64.0%)が6割台半ばで最も多くなっており、以下、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」(31.3%)、「自分の仕事に関連して」(18.0%)などが続く。

(図表30-1-1)

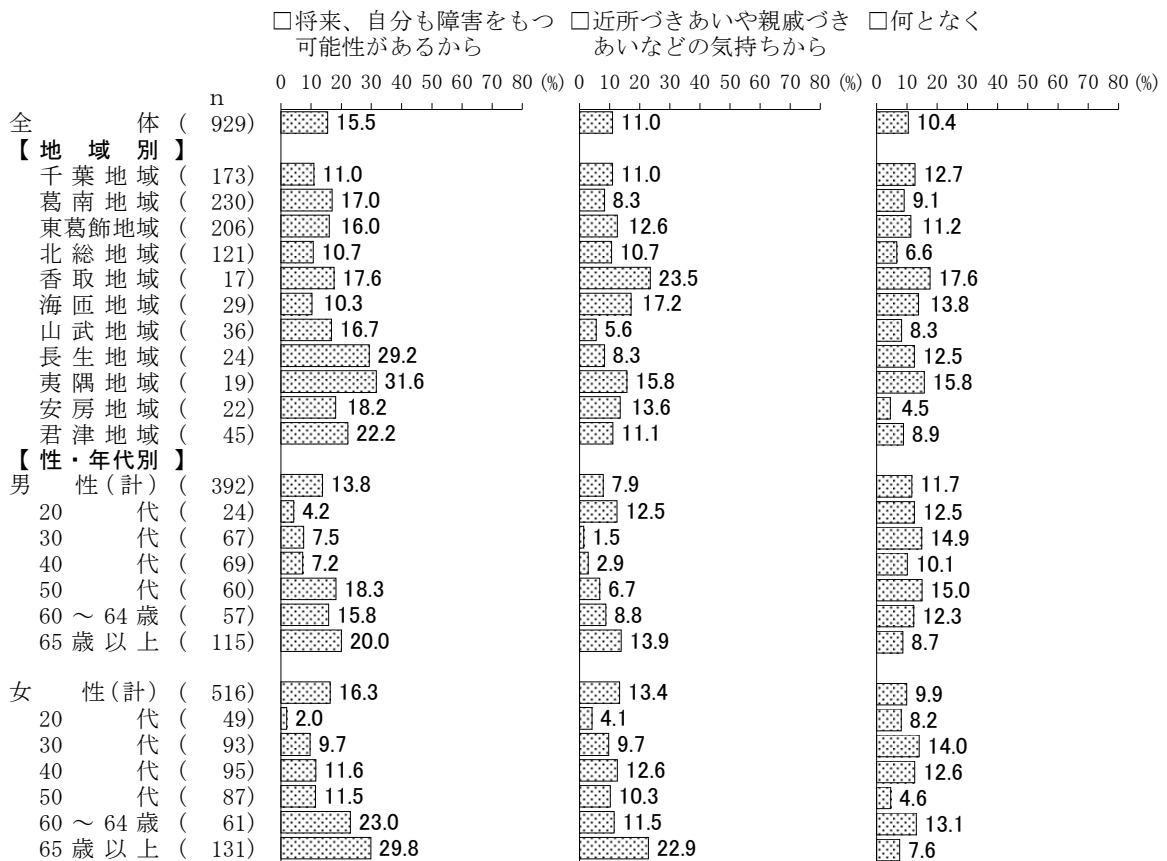
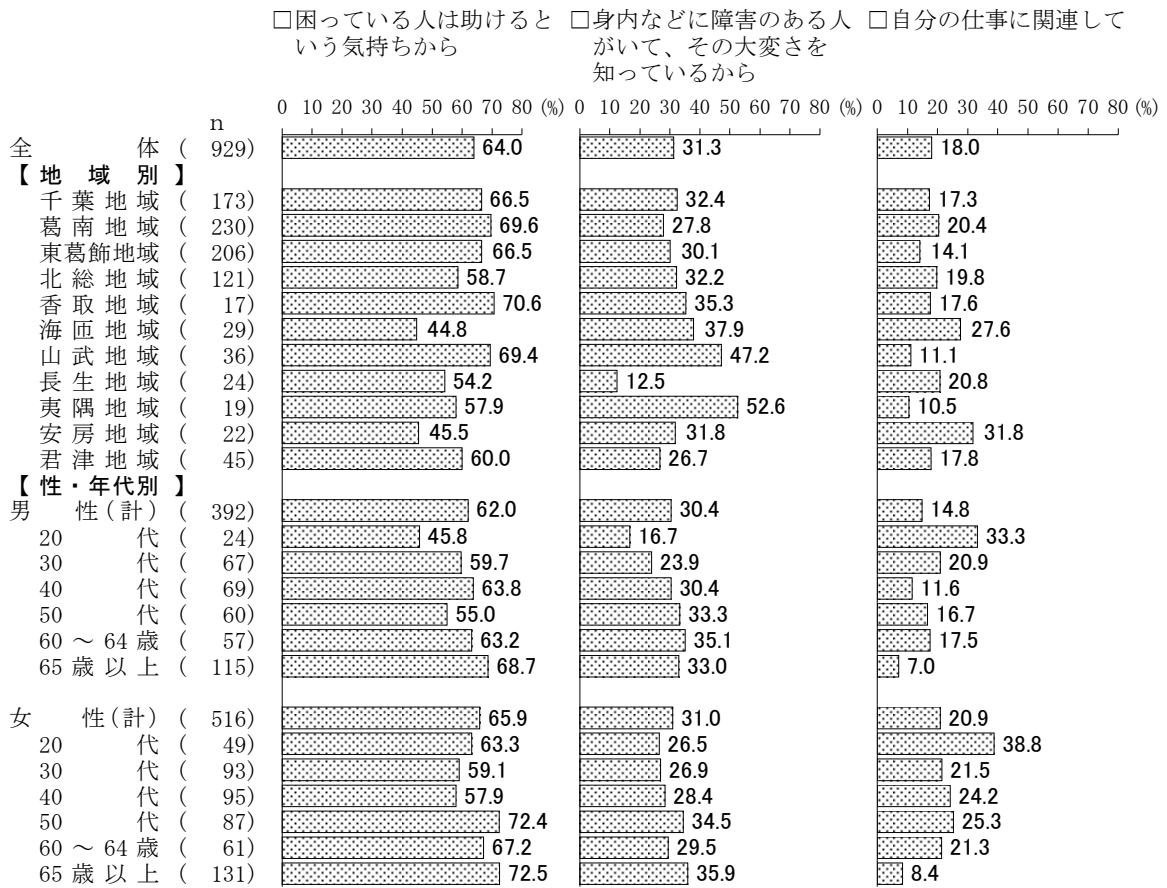
【地域別】

地域別にみると、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」は“夷隅地域”(52.6%)が5割を超えて多く、“山武地域”(47.2%)が約5割となっている。「自分の仕事に関連して」は“安房地域”(31.8%)が3割を超えている。「将来、自分も障害を持つ可能性があるから」は“夷隅地域”(31.6%)と“長生地域”(29.2%)がともに3割前後となっている。(図表30-1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「困っている人は助けるという気持ちから」は女性50代(72.4%)・65歳以上(72.5%)がともに7割を超えている。「自分の仕事に関連して」は男女ともに20代(男性33.3%、女性38.8%)が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。「将来、自分も障害をもつ可能性があるから」はおおむね年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。「近所づきあいや親戚づきあいなどの気持ちから」は女性65歳以上(22.9%)が2割を超えている。(図表30-1-2)

<図表30-1-2>障害のある人との交流や手助けをしたきっかけ／地域別、性・年代別(上位6項目)



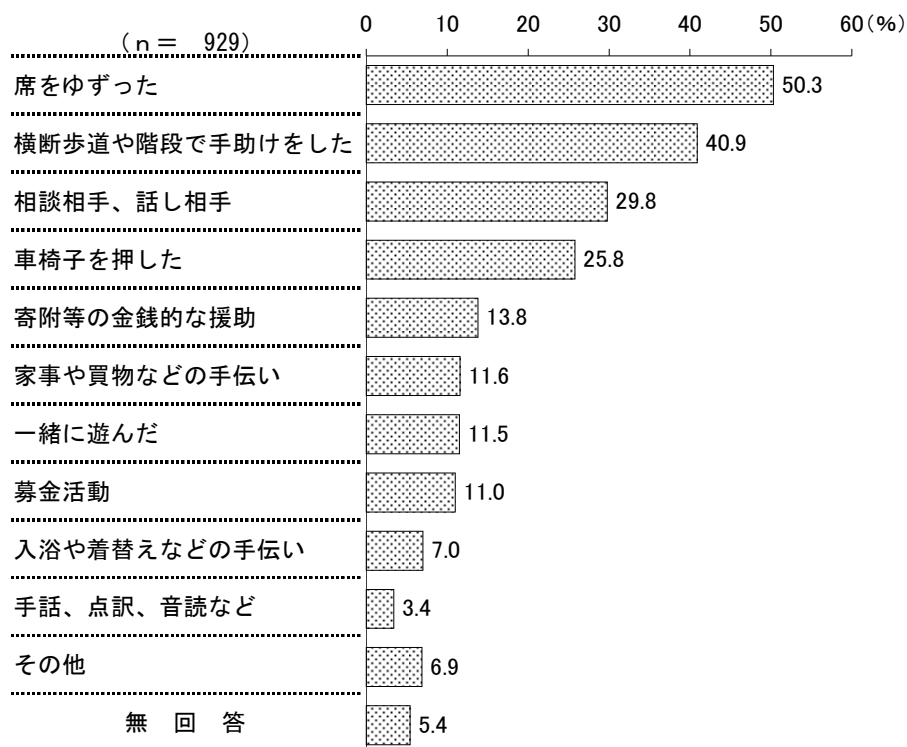
(1-2) 障害のある人との交流や手助けの内容

◇「席をゆずった」が5割

(問30で「ある」とお答えの方に)

問30-2 それはどのような話や手助けでしたか。(〇はいくつでも)

<図表30-2-1>障害のある人との交流や手助けの内容



障害のある人に話しかけたり、障害のある人の手助けをしたりしたことが「ある」と答えた人(929人)に、どのような話や手助けをしたか聞いたところ、「席をゆずった」(50.3%)が5割で最も多くなっており、以下、「横断歩道や階段で手助けをした」(40.9%)、「相談相手、話し相手」(29.8%)、「車椅子を押した」(25.8%)などが続く。(図表30-2-1)

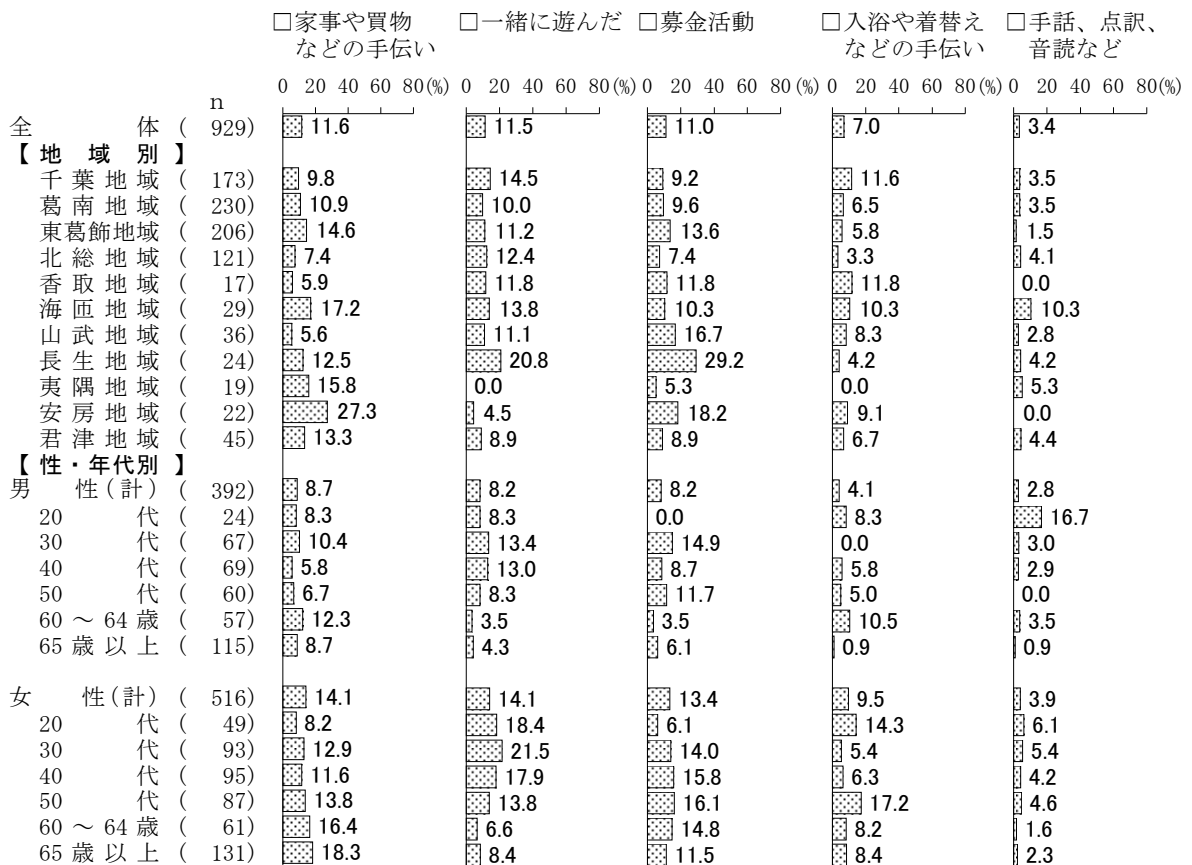
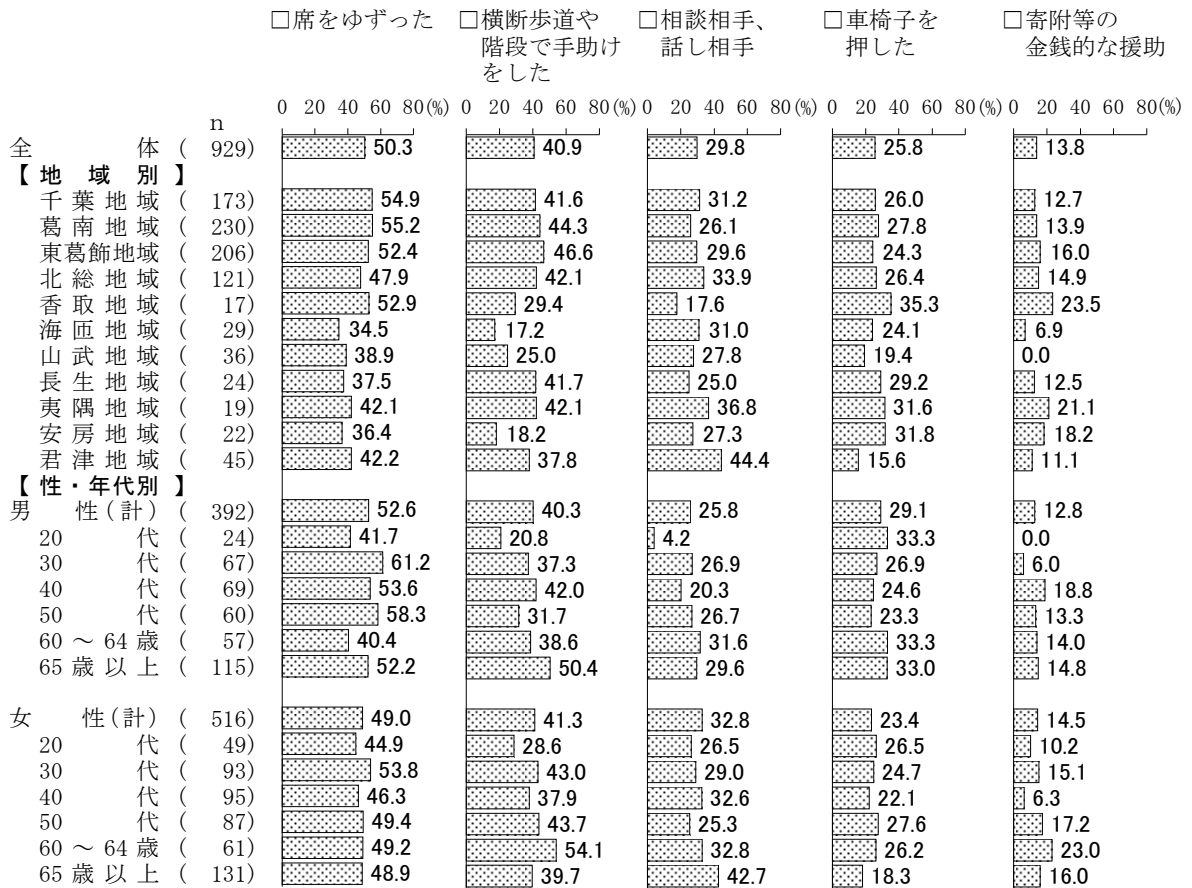
【地域別】

地域別にみると、「相談相手、話し相手」は“君津地域”(44.4%)が4割台半ばとなっている。「車椅子を押した」は“香取地域”(35.3%)が3割台半ばとなっている。「家事や買物などの手伝い」は“安房地域”(27.3%)が約3割となっている。「募金活動」は“長生地域”(29.2%)が約3割となっている。(図表30-2-2)

【性・年代別】

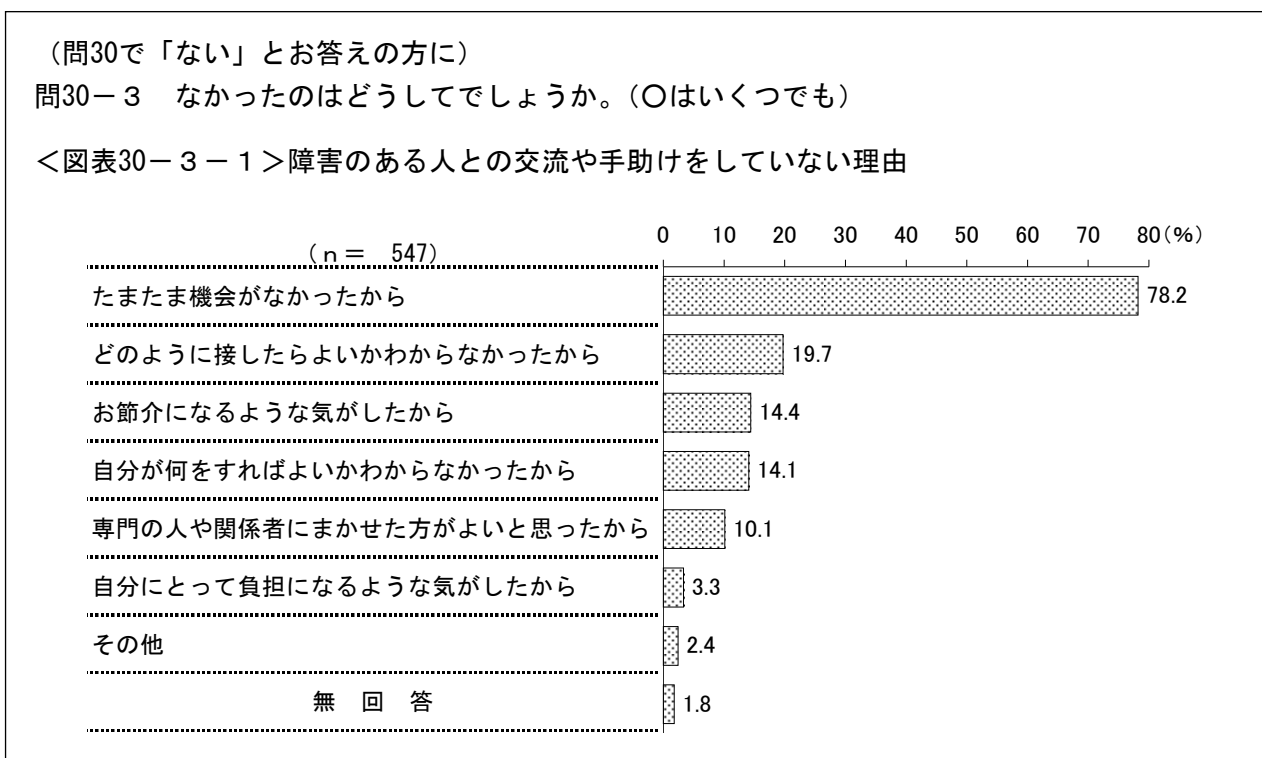
性・年代別にみると、「横断歩道や階段で手助けをした」は女性60~64歳(54.1%)が5割台半ばとなっている。「相談相手、話し相手」は女性65歳以上(42.7%)が4割を超えている。「一緒に遊んだ」は女性30代(21.5%)が2割を超えている。(図表30-2-2)

<図表30-2-2>障害のある人との交流や手助けの内容／地域別、性・年代別（上位10項目）



(1-3) 障害のある人との交流や手助けをしていない理由

◇「たまたま機会がなかったから」が約8割



障害のある人に話しかけたり、障害のある人の手助けをしたりしたことが「ない」と答えた人(547人)に、その理由を聞いたところ、「たまたま機会がなかったから」(78.2%)が約8割で最も多くなっており、以下、「どのように接したらよいかわからなかったから」(19.7%)、「お節介になるような気がしたから」(14.4%)、「自分が何をすればよいかわからなかったから」(14.1%)などが続く。

(図表30-3-1)

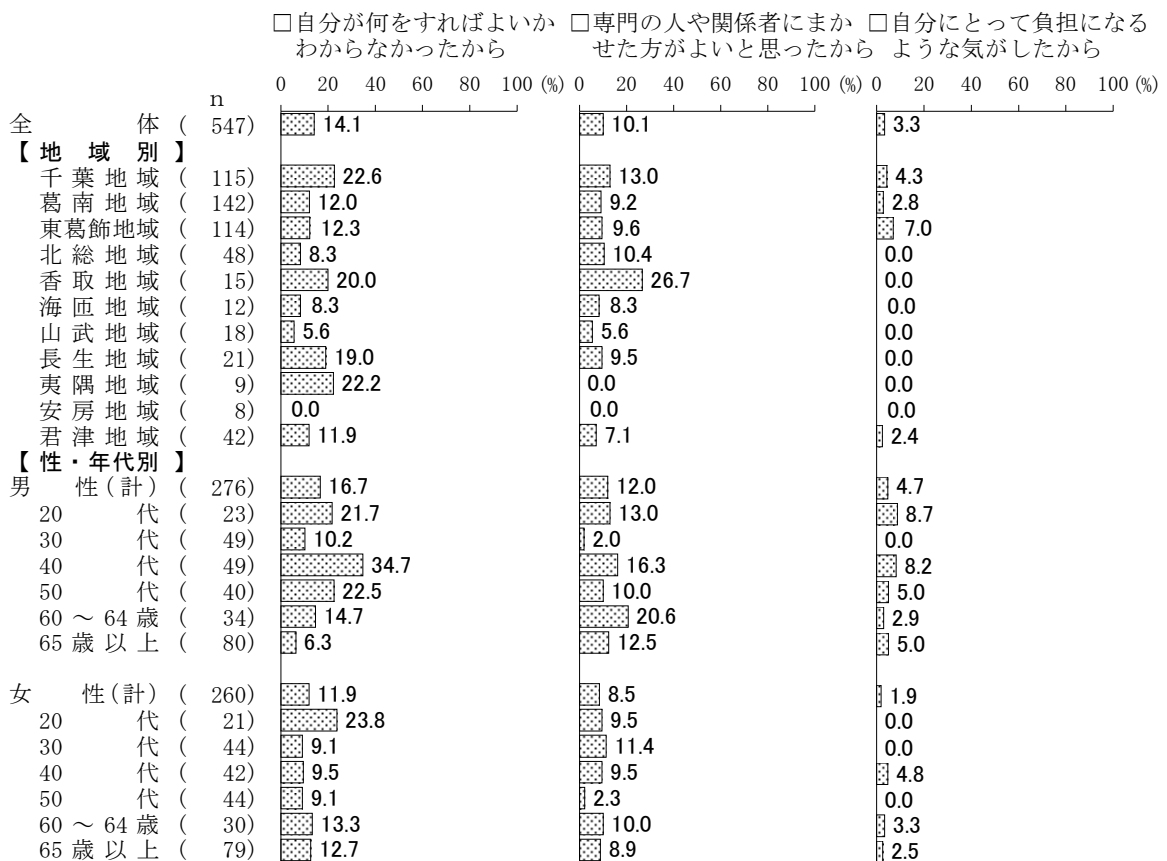
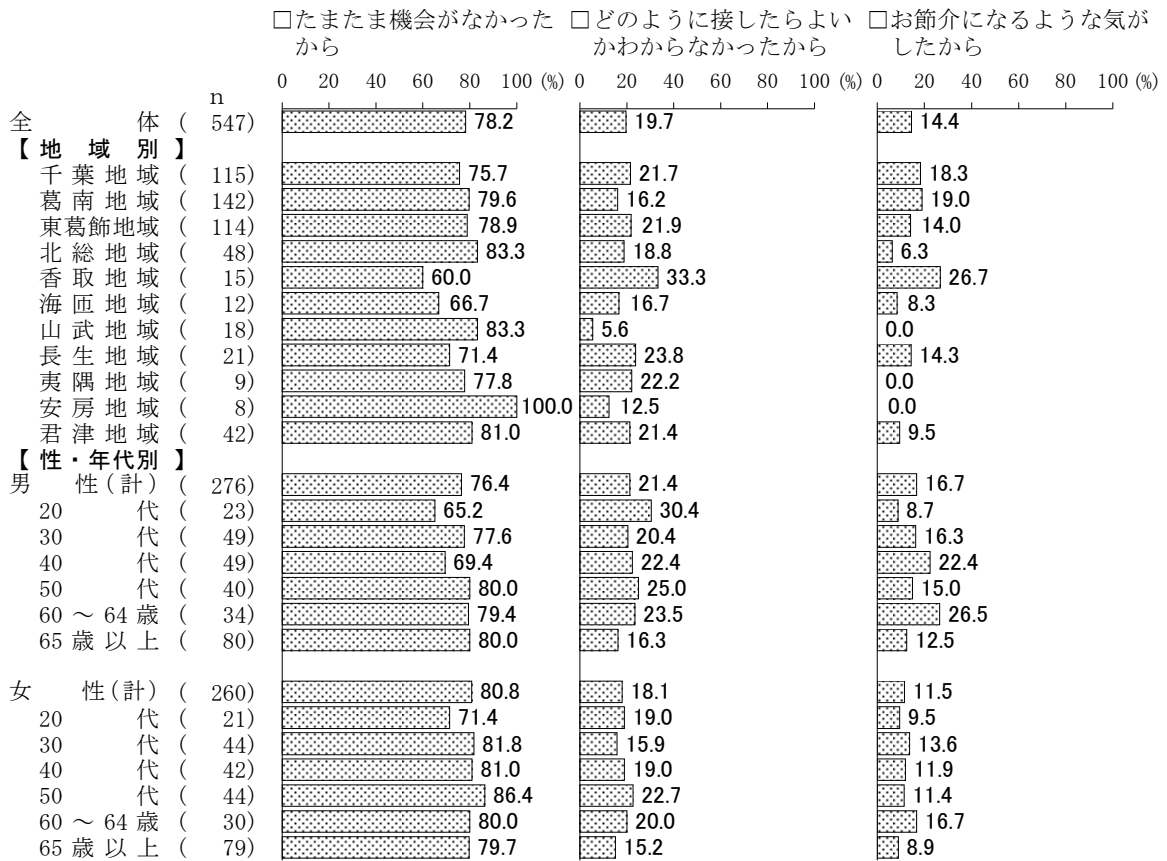
【地域別】

地域別にみると、「どのように接したらよいかわからなかったから」は“香取地域”(33.3%)が3割台半ばとなっている。「専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから」は“香取地域”(26.7%)が2割台半ばとなっている。(図表30-3-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「どのように接したらよいかわからなかったから」は男性20代(30.4%)が3割となっている。「お節介になるような気がしたから」は男性60~64歳(26.5%)が2割台半ばとなっている。「自分が何をすればよいかわからなかったから」は男性40代(34.7%)が3割台半ばとなっている。(図表30-3-2)

<図表30-3-2>障害のある人との交流や手助けをしていない理由／地域別、性・年代別(上位6項目)

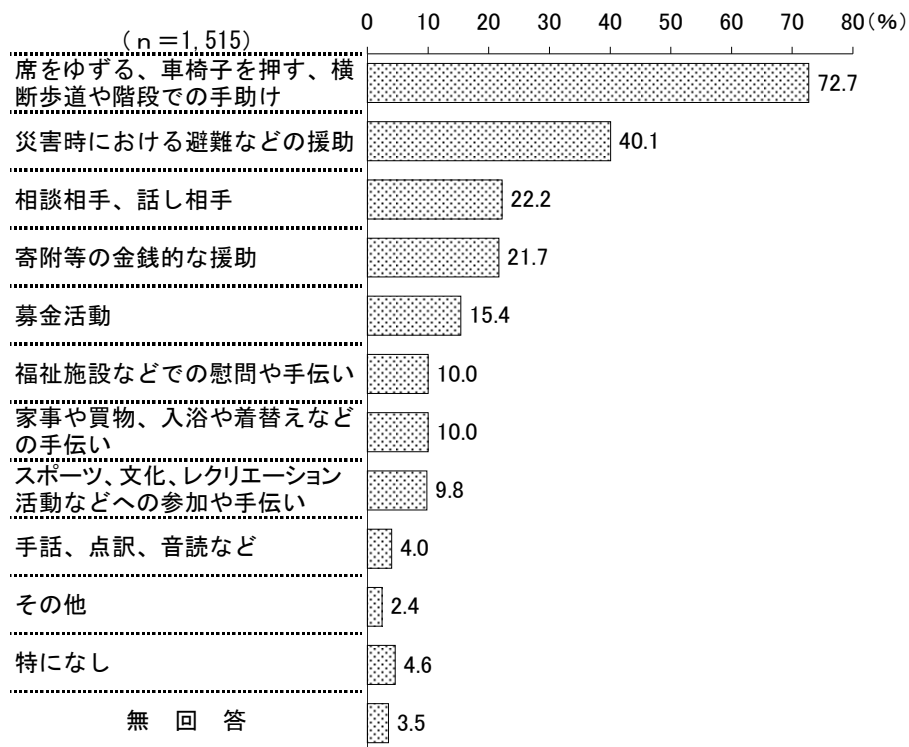


(2) 東日本大震災を契機とした今後の障害のある人との関わり方

◇「席をゆずる、車椅子を押す、横断歩道や階段での手助け」が7割を超える

問31 東日本大震災では、障害のある人は支援を必要とする人も多く、「支え合い」の重要性が再認識されました。今回の震災を契機に、あなたは、今後、障害のある人とどのような関わりをしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表31-1> 東日本大震災を契機とした今後の障害のある人との関わり方



今回の震災を契機に、今後障害のある人とどのような関わりをしたいと思うか聞いたところ、「席をゆずる、車椅子を押す、横断歩道や階段での手助け」(72.7%)が7割を超えて最も多くなっており、以下、「災害時における避難などの援助」(40.1%)、「相談相手、話し相手」(22.2%)、「寄附等の金銭的な援助」(21.7%)などが続く。(図表31-1)

【地域別】

地域別にみると、「席をゆずる、車椅子を押す、横断歩道や階段での手助け」は“香取地域”(81.3%)が8割を超えている。「相談相手、話し相手」は“夷隅地域”(31.0%)が3割を超えている。

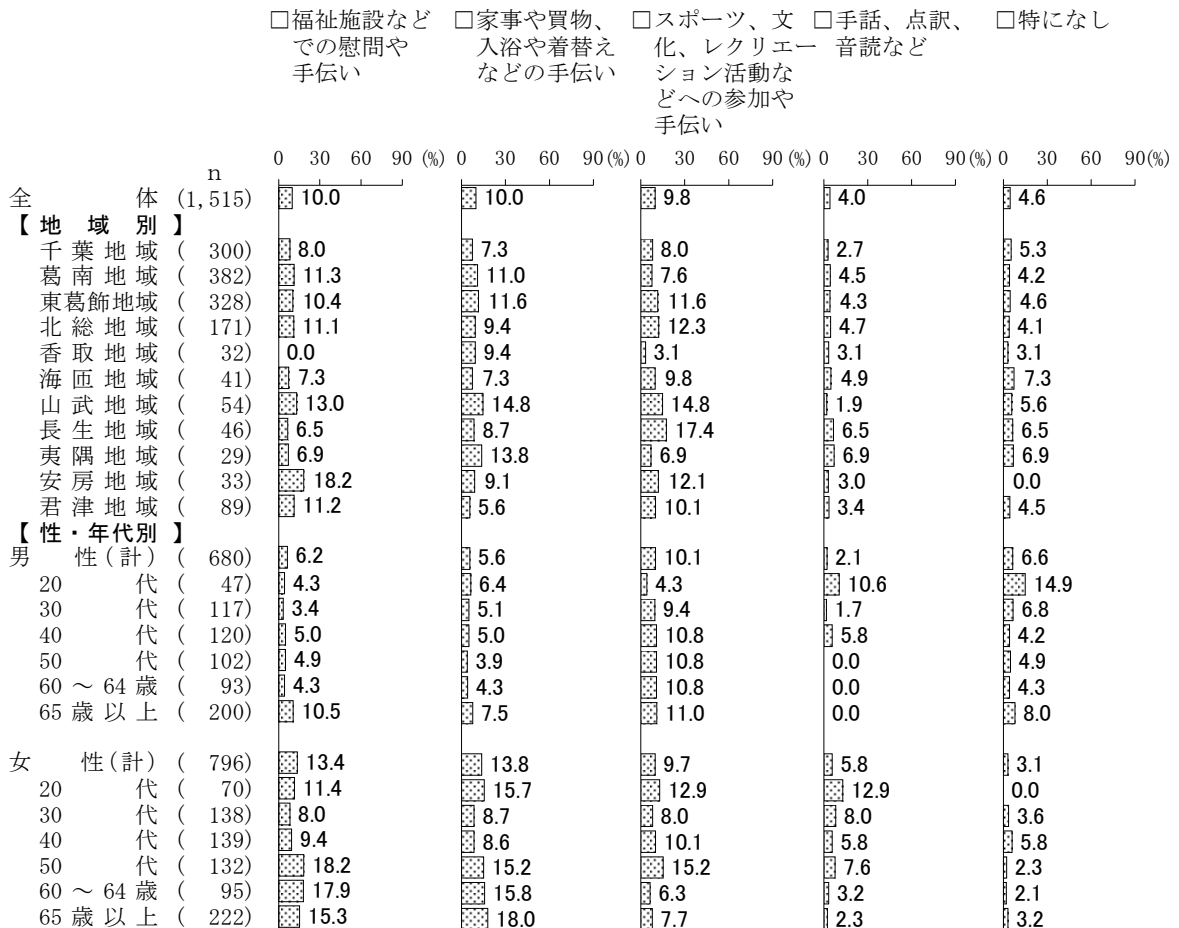
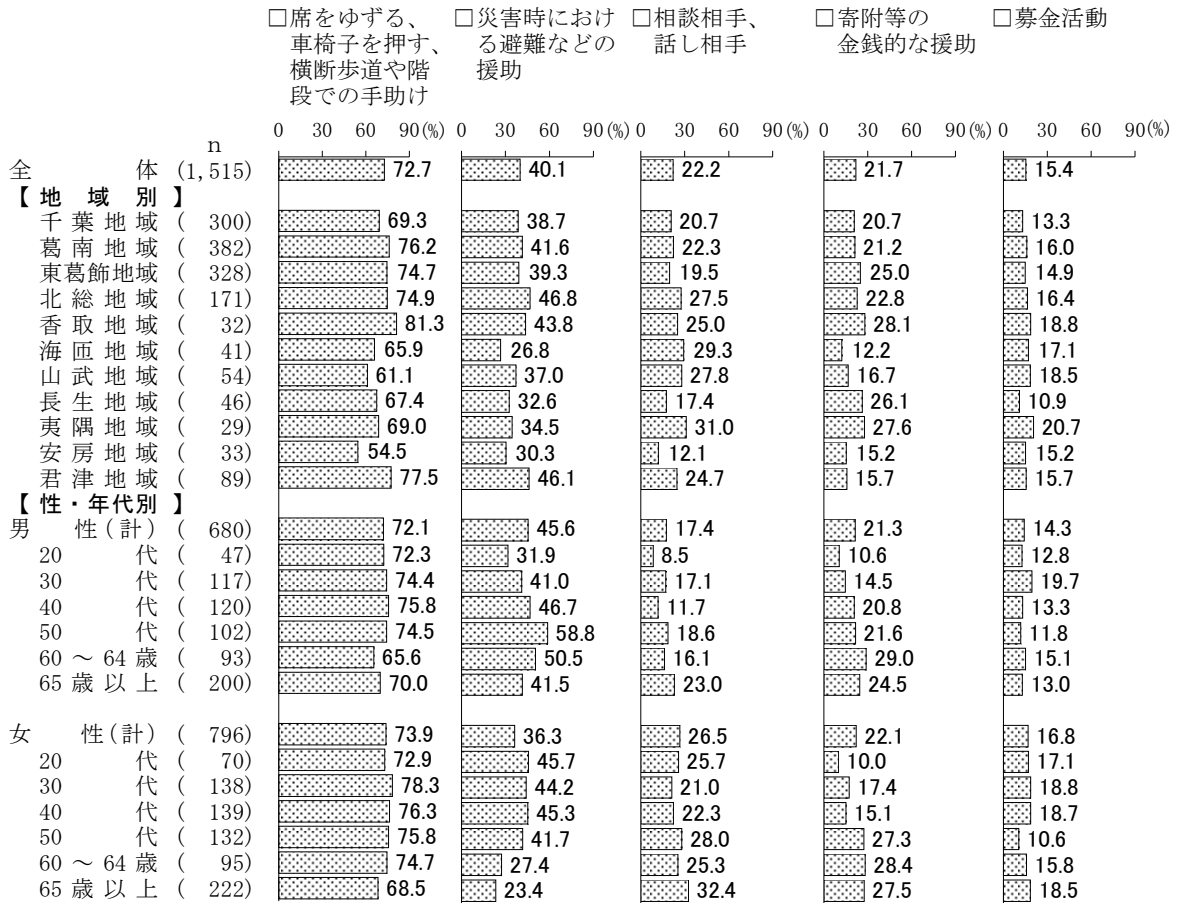
(図表31-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「災害時における避難などの援助」は男性50代(58.8%)が約6割と多くなっている。「相談相手、話し相手」は女性65歳以上(32.4%)が3割を超えている。(図表31-2)

<図表31-2> 東日本大震災を契機とした今後の障害のある人との関わり方

／地域別、性・年代別（上位10項目）



(3) 障害を理由とする差別や偏見に対する意識

◇「あると思う」と「少しはあると思う」がともに4割台半ば

問32 あなたは、世の中には障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ)

<図表32-1> 障害を理由とする差別や偏見に対する意識



世の中には障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(43.5%)と「少しはあると思う」(43.7%)がともに4割台半ばとなっている。「ないと思う」(10.0%)は1割である。(図表32-1)

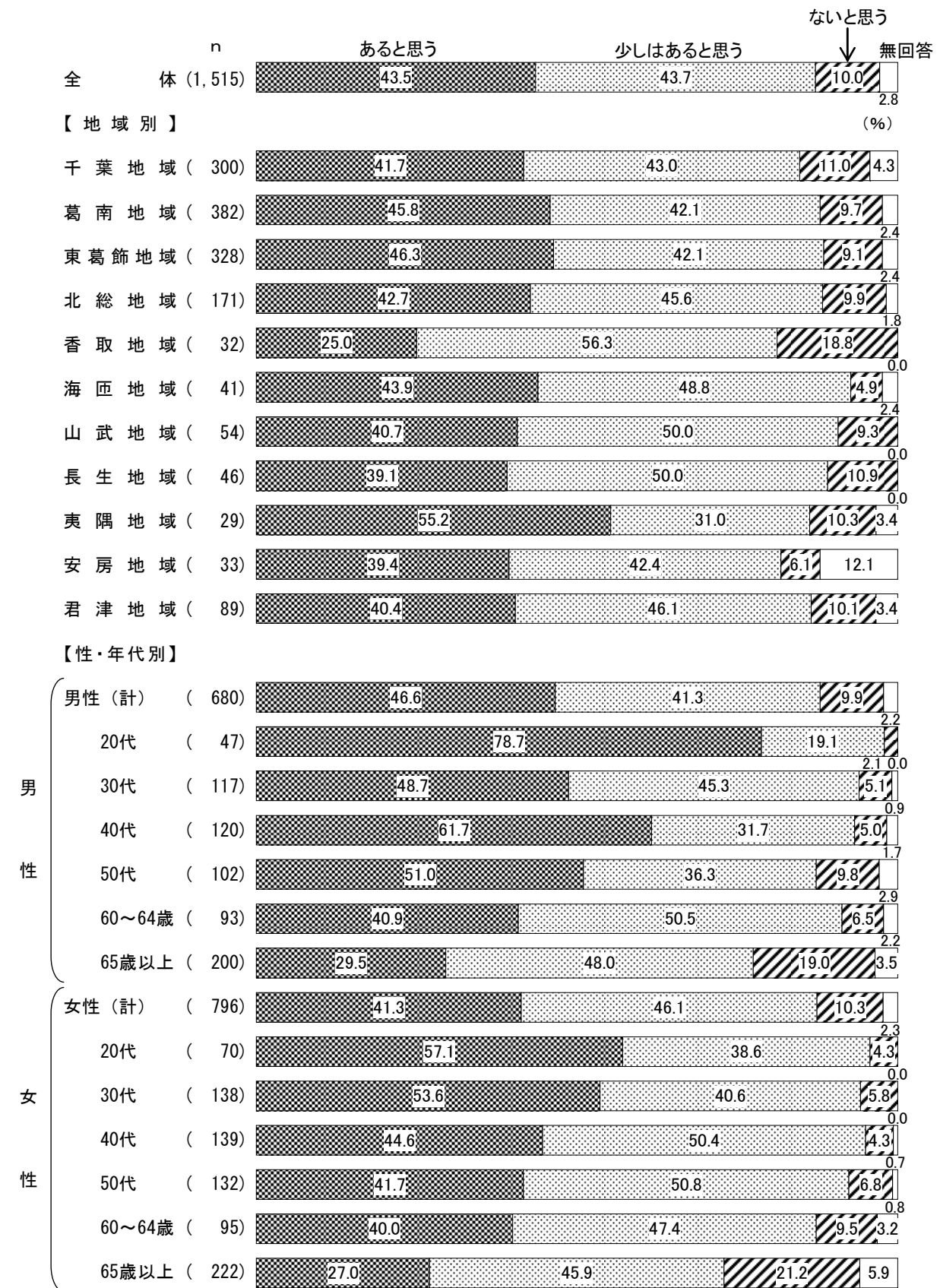
【地域別】

地域別にみると、「あると思う」は“夷隅地域”(55.2%)が5割台半ばとなっている。“香取地域”では、「あると思う」(25.0%)が2割台半ばと低く、「ないと思う」(18.8%)が約2割となっている。(図表32-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」はおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に男性20代(78.7%)が約8割と多くなっている。(図表32-2)

<図表32-2>障害を理由とする差別や偏見に対する意識／地域別、性・年代別

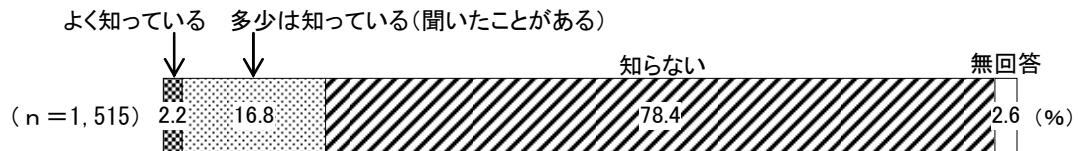


(4) 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」の認知度

◇「多少は知っている（聞いたことがある）」は1割台半ば

問33 あなたは、障害のある人の差別に関する全国初の条例である「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が千葉県にあることを知っていますか。（○は1つ）

<図表33-1> 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」の認知度



障害のある人の差別に関する全国初の条例である「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が千葉県にあることを知っているか聞いたところ、「よく知っている」は2.2%で、「多少は知っている（聞いたことがある）」（16.8%）は1割台半ばとなっている。「知らない」（78.4%）は約8割である。（図表33-1）

【地域別】

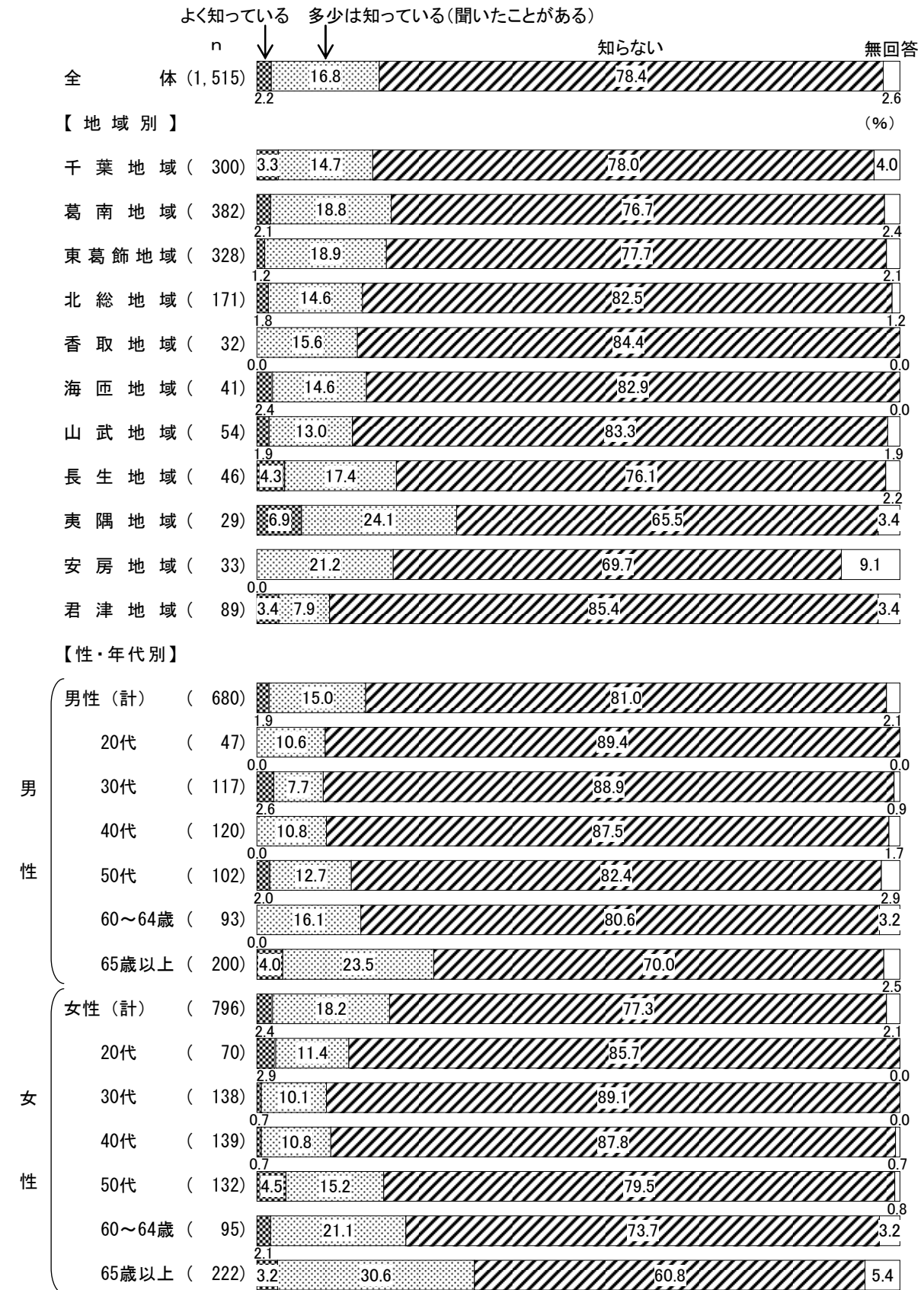
地域別にみると、「夷隅地域」で「よく知っている」（6.9%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（24.1%）の割合がともに最も多くなっている。（図表33-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「多少は知っている（聞いたことがある）」は男女とも65歳以上（男性23.5%、女性30.6%）が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。（図表33-2）

<図表33-2> 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」の認知度

／地域別、性・年代別



このほかに、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例について」やここまでの質問（問30～問33）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、151人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例について」の自由回答（抜粋）

- この調査では精神障害に関する設問が少ないと思います。心を病んでいる障害者に対して、もっと理解があってほしい。（男性・65歳以上・北総地域）
- 誰もが自然に困っている人に手を貸すという意識を持つことが大切です。健常者と障害者も幼児も高齢者もみな平等に助け合う心を持つことが大事だと思います。（女性・65歳以上・東葛飾地域）
- 条例があっても知らなければ意味がない。もっとPRが必要ではないのか。（男性・30代・葛南地域）
- 学校教育の中にしっかりとボランティア活動体験を組み込む必要がある。人の気持ちがわからない若者が目立つ。大人も必ずボランティア体験などする方向があるとよい。ニュージーランドやオーストラリアなどでは週一回ボランティア活動をしていると聞いております。身の丈にあうボランティアを各自が考えてやると社会も変化すると思う。（女性・65歳以上・千葉地域）
- 障害のある人と認定されている人にはそれなりの制度があり、良いと思うが、グレーゾーンの人に関しては何も手だてが入っていない。学校生活では個人に応じて対応しているが、卒業後仕事につくことが問題となり、不安定な状態になっていると思う。犯罪を起こす可能性もある。就業支援などの早急な対応が必要と考えます。（女性・50代・千葉地域）
- このような条例があることは知りませんでした。子どもの友人に障害を持ったお子さんが多く、進学の際、毎回受入先に困っています。各校に特別支援学級を作る、それが困難ならスクールバスを走らせること。また、子どものうちから障害のある方と交流や関わりを持つことで、自然と身につくように教育の場も考えてもらいたい。（女性・30代・葛南地域）
- 歩道一つをとっても、バリアフリー化が十分といえない所が多くあります。また人の動線が十分に考慮されていない施設も多く見受けられますので、これらを少し改善するだけでも効果が大きいと思います。（男性・40代・千葉地域）
- 障害のある人とない人との交流の場があればもっと理解し合い、手助けする方法を知ることができると思います。（女性・65歳以上・東葛飾地域）
- どのような障害の人がどのようなことで不便を感じているかを一般の人たちに知ってもらうこと。（男性・50代・君津地域）
- 障害者施設をもっと地域の人達に見せてほしい。地域の運動会やお祭りなどの行事などに参加してもらいたい。町内会で知らせてほしい。一緒に遊びたいです。老人施設も開放してほしい。（女性・65歳以上・千葉地域）